

たくましく生きる力を育む学級経営のあり方 - 2ヶ年(4~5年)の学級経営を通して -

取手市立白山小学校教諭

吉野 とし子

学校生活における主人公は、子ども達である。自分の存在が、教師や仲間から認められ平等な仲間意識が学級に浸透すれば、子どもは自分の個性を発揮し、自分の活躍の場を積極的に見付け出していくと思われる。

それぞれの持つ良さを発見し、育成していくことが、生きる力を育む源であると考え、学級経営を実践してきた。そして、「たくましく生きる」という目標に迫るために、

- 1) 集団体験を通して社会性を育成すること
- 2) 総合単元的道徳学習を通して、児童の心を計画的・発展的に育てていくことを柱にして学級経営の在り方を探ってきた。

キーワード：長所発見育成型の児童理解・社会性の育成

Understanding students which focuses on recognizing and raising.

Raising students social skills.

1 なぜ「たくましく生きる力」が必要か。

昨今、児童・生徒による殺傷事件や自殺行為・いじめ問題が世の中を賑わわせている。このような行為を見ると、自分だけよければよいという独りよがりな考え方が世の中を支配しているような気さえする。

世の中は今、快適・便利・新しさの中で 酔いしれ物事の価値判断が難しい時代でもある。けれど、このような世の中であるからこそ、自己を確立した「たくましく生きる力」が不可欠なのではないかと考える。

2 「たくましく生きる力」とは何か。

自分自身の良さを知り、人間として生きる誇りを持って行動する力であるととらえている。また、言い換えれば、“自分の個性を発揮し、自分の活躍の場を積極的に見付け出していく姿”ともとらえることができる。自分の活躍の場(閾値)を広げ耐性を育てていくことで、たくましく生きる力は備わってくるのではないか。

3 学級経営の中で「たくましく生きる力」をどのように育てるのか。

私は、「たくましく生きる力」を育てる方策として『長所発見育成型の児童理解』『集団体験を生かした社会性の育成』『総合単元的な道徳学習』の3つの観点を大切にして、学級経営を実践してきた。

吉野：学級経営のあり方

この3つの方策について次に述べる。

(1) 長所発見育成型の児童理解

過去の学級経営においては、短所を指摘しその矯正の為に多くの時間を費やしてきた。しかし、これは、結果としてやる気を減退させたり児童の心の変容が得られなかったりした。

どの児童も、本来、より良く生きようとする心を持っている。それは、自分自身を高めようと努力している姿であったり困っている人に対して親切に手をさしのべたりしている姿に表れる。その行動の良さを認められることは、児童にとって心地良い体験となりさらに児童自身が自分の良さに気付く時である。また、教師や友達から良さを認められることによって、自分に自信を持つことができ、学校での居場所が確立されると考えられる。

このような傾向を踏まえて、私は、長所発見育成型の児童理解の重要性を認識している。

次に、児童の内面に迫り寄り添う児童理解の方策を述べる。

①児童理解の方策として、私としては、次のような5つの方策を意識的に使って対応してきた。

- ・5年1組満足度チェック
- ・教育相談（カウンセリング面接）
- ・“心のポスト”の設置
- ・日常の生活行動の観察から
- ・担任外の先生との連携

私は、児童の行動から児童の心を観察していくことは大切であると思う。しかし、これだけで、一人ひとりの内面を十分理解することは不可能である。また、担任の理解と児童の意識のずれもあるはずである。児童が真に学級の中で、『この学級にいて楽しい。また明日もこの教室で過ごしたい』という満足があってこそ、学級の機能を果たしていると考ええる。そこで、学級に所属している中での問題点を探りながら、学級の良さを前面に出して経営にあたりたいと考えた。

月に1回の実施であるが、一人ひとりの悩みや、担任としてどこに指導（支援）の問題点があるのかをつかむことができるので、ポイントを押さえた支援の方向をつかんで経営にあたることができるようになった。

次に、4、5月末に実施した『5年1組満足度チェック』について紹介する。

5年1組満足度チェック 抜粋

1 ……はい 2 ……いいえ 3 ……どちらともいえない

項目	名前															平均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
1 明るいクラスですか	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
2 楽しいクラスですか	3	2	1	2	1	1	1	2	3	1	1	1	2	1	1	2
3 クラスに所属している友達がいいますか	3	2	1	1	1	1	1	1	3	2	3	1	1	1	1	1
4 クラスに友達になりましたか	2	2	1	1	3	2	3	3	1	1	1	1	1	1	1	3
5 休み時間について友達と話をしていますか																
6 友達がいいますか																
7 友達がいいますか																
8 友達がいいますか																
9 友達がいいますか																
10 友達がいいますか																
11 友達がいいますか																
12 友達がいいますか																
13 友達がいいますか																
14 友達がいいますか																
15 友達がいいますか																
合計	3	2	1	2	1	1	1	2	3	1	1	1	2	1	1	2
平均	3	2	1	1	1	1	1	1	3	2	3	1	1	1	1	1
標準偏差	2	2	1	1	3	2	3	3	1	1	1	1	1	1	1	3

*この項目は、「学級の育て方・生かし方」 国分康孝・河村茂雄共著（金子書房）を参考に作成した。

②学級の実態 (5年)

「5年1組満足度チェック」の項目11や7日常の行動観察や日常の振り返りカードから、次のように学級の実態をとらえた。

<長所>

- ・物事をプラス思考で考える児童が多い。
- ・係活動で自己実現を図ろうとする児童が多い。
- ・素直な気持ちで生活することの心地良さを体験している児童が多い。

<短所>

- ・いろいろな場面で適切なリーダーシップのとれる児童が少ない。
- ・基本的な生活習慣が身につけていない児童が男子に見られる。
- ・ストレスに耐える力の弱い児童や指示待ち的な児童が多い。

以上のように、いろいろな場面で適切なリーダーシップのとれる児童が少ないことから集団体験の欠如が、基本的な生活習慣の身に付いていない児童やストレスに耐える力の弱い児童が多いことから社会性の育成欠如が見られることを考慮し、学級集団としての高まりの中から個人を育てることをねらいとする学級経営を実践してきた。

次に、自分自身を自己評価しながら、自分自身の目当てに気付けるように支援する実践カードを紹介する。

実践例1「がんばる5年生」

がんばる5年生!

項目	4	1	2	3
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				

30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				

③教育相談の実施

「満足度チェック」において、満足度の低い児童については、カウンセリング面接を実施した。以下は、その具体的な実践例である。

実践例1 NO. 3 (A児)

4月に満足度が低い。休み時間に、ひとりで本を読んでおり級友と交わろうとしない。生き物の係としてカメの餌探しを一生懸命する。しかし、友達の欠点を指摘することが多く、他者受容に乏しい面が見られる。

対応…休み時間に級友D児に遊びに誘ってもらう。担任も一緒に餌のミミズ探しをする。友達から「キラリカード(A君は、生き物のことを良く知っており生き物の身になって世話をしている。)で賞賛を受ける。

実践例2 NO. 15 (B児)

係活動において、他の3人が相談なしに活動してしまい活動の場が保証されていない。放課後、習いごとの関係で遊びの約束ができない。その為学級における居場所が安定しない。学習に真面目に取り組む。発表も積極的である。

対応…「一人一役」の係活動の見直し。「係活動の在り方」(仕事は声をかけあってやると楽しくなる。みんなで楽しくなるような活動をしよう。)の再確認をする。全校集会で、ピアノの伴奏をする機会に恵まれる。

実践例3 NO. 23 (C児)

友人関係が稀薄な為か、信頼できる友人がいない。宿泊学習の実行委員に進んでなり、写真の貼り付けまで責任を持ってやる。母が勤めから帰るのが遅いのが不満の一つになっている。

対応…友達作りの為の、ミニゲームの実施。「キラリカード」の発行。言葉かけを多くする。教育相談の回数を増やす。

④のびゆく心を育てる方策

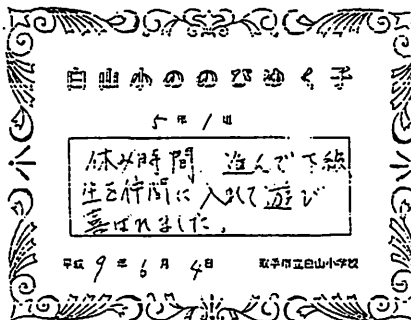
教師や友人からの賞揚や共感が支えになった感動体験や自分の良さを見付ける感動体験を通して、自らの伸びていこうとする心を育てたいと考え、次のような実践を続けてきた。

実践例1 白山小ののびゆく子

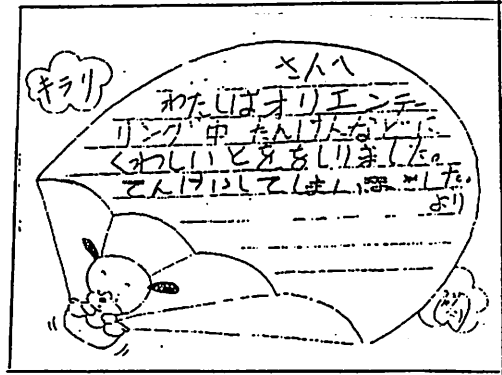
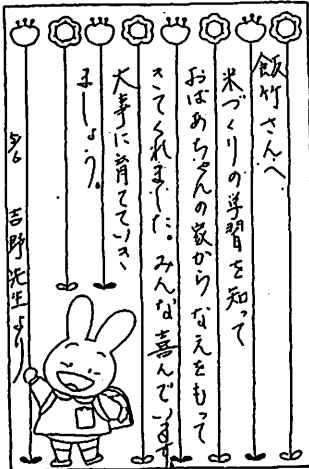
全校での取り組みである。思いやりの言動や自ら伸びようと努力している児童を全職員で見守り賞賛し、全校放送で知らせ啓蒙していくものである。

実践例2 キラリカード

高学年の取り組みである。児童同士が友達の良い面を見付けて賞賛していくものである。カードは「思いやりコーナー」に掲示される。また、担任もキラリカードを発行する。



実践例1



実践例2

⑤児童の変容の様子

「5年1組満足度チェック」や「教育相談を実施することで、児童の内面を知り、その実態から今までの学級経営の反省をすることができる。その為、対応の仕方を変更し、より児童の心に寄り添えるようになった。児童を共感的に理解することで、児童の心が安定し学級における居場所の確立を支援できるようになった。

表1から分かるように、5月末実施の「満足度チェック」において向上が見られてきたまた、それぞれの児童の自己開示が見られてきたことや係活動や清掃活動においての取り組みが熱心になってきたことが変容の様子としてとらえることができる。

「白山小ののびゆく子」や「キラリカード」の発行によって、人の良さに気付いたり、自分の良さに気付いたりして、その行為の心地良さを体験することができる。そして、人間関係を豊かにし、学校生活を楽しいものとするようになることができた。この際担任は、どの子にも賞揚の機会があるように名簿にチェックし、積極的に児童の良さを観とるよう配慮している。

長所発見育成型の児童理解は、担任一人の力でできるものではない。担任外の先生からの情報や連携も大切である。より多くの人に観とられることで、より深い児童理解ができる。また、これらは、連絡長などに貼り家庭に知らせるので家庭での話題にのほりさらに児童のやる気を促している。

以上のように、長所発見育成型の児童理解は、学級における居場所作りや自己の確立に有効であることから、児童の「生きる力」を育む源であると考えられる。

(2) 集団体験を通した社会性の育成

家庭教育や地域社会教育の機能の低下を直視し、学級の中での集団体験を通して個を育てることに今後いっそう重点を置く必要がある。

集団の中で生きていくためには、現実によってある程度自分の欲求を抑制しなければ、快楽を満たすことはできないということを学ばせたい。また、自分は人とどう付き合うべきかの技能を身に付けさせる。そして、多くのいざこざを体験させ、その中でいかに自己主張できる子供にするかも大切であると考えられる。

そこで、学級の中で社会性を育てる観点として、つぎの5つを実践してきた。

①社交の能力の育成

集団には現実原則が存在する。児童は学級の中で、ある程度自分の欲求を抑制しなければ快楽原則を満たせないことを学習できる。現実原則の中でも、集団のルールや人との対応の仕方を学ぶことから社交の能力を育てることを実践した。次に、人との対応の仕方を育てる実践を紹介する。

実践例1 「お先にどうぞ」の気持ちでプリントを配る実践。これは、プリントを後ろの人に配る時に、まず隣の人に「お先にどうぞ」と渡し、次に自分のプリントをとり、それから後ろの人にプリントを渡していくのである。小さなことだが、日常的にすぐできる実践なので、児童同士のリレーションがしやすく、すがすがしい感情交流ができる。

②コミュニケーション能力の育成

児童の日常の様子を見てみると、言葉不足の為に起こるトラブルが多いことに気付く。また、人に自分の思いを伝える経験も不足している。このような実態から、児童同士のコミュニケーション能力が向上するような試みを続けている。次に実践例を紹介する。

実践例2 朝の会での「一言発言」

健康観察の後に「一言発言」をする実践。特に長い時間を必要としないので日常的に続けられ、お互いを知る上で有効であると思う。「一言発言」は日々のテーマを決めて言うようにする。そのテーマも児童が決めていけるようにする。例えば、「今日は、好きな遊びについて一言発言してください。」「新聞やテレビ等から知ったニュースを伝えてください」というようにである。児童は、「はい、元気です。わたしは、ヨーヨーが好きです。」等々。

また、相手に自分の思いを伝えられない為にトラブルを起こす児童がしばしば見られる。トラブルが起きた時には、双方の言い分をじっくりと聞いてやることを心がけている。自分の思いを相手に話しながら、自分の問題点に気付いていくことがしばしば見られる。教育相談は、日常の教師のほんの一言の重みと同時に児童の言葉に耳を傾ける余裕が大事である。児童の自己解決の能力を育てるものは、共感的に話を聞いたり耳を傾けたりすることではないだろうか。

実践例3 学級内の集団のルールの確立

児童が学級に所属することで集団体験の効果を享受するためには、教育力のある学級集団の育成が不可欠である。児童にとって、学級集団は小さな社会である。その社会が運営されるには規則が必要である。自分達の学級の問題点を意識しつつ、より良い学級を作り上げようとする心から、「人の話は相手の顔を見て最後まで聞く」「自分の考えをはっきりと言う」「集団活動では、協力する」の3つが決められた。これらは様々な教育活動のなかで意識して指導に当たってきた。良い行動が見られた時には、見逃さずに話題に出したり、該当する児童に賞賛の言葉を伝えたりしている。

また、振り返りの時間を設定して、自己評価を月に1度は実施している。

③我慢（耐性強化）育成

少産良育時代と称される現代、過保護や過干渉から指示待ちの児童が増加している。

これらの児童は、特に自分で判断する機会が与えられていないことが多い。そのため、危機的な場面に会った時の判断力を付けさせることの重要性を感じている。危機に耐える力をどうやってつくるか。それは耐性の問題でもある。次に耐性強化の一助になればと思い実践していることを紹介する。

実践例1 「鍛える」観点で児童対応に当たる指示待ちからの脱皮をする為に、「次は何をすればいいですか。」から「次は～をしたいのですが。」へ変換させる。何気ない言葉の変換で【考える】ことや自ら行動を決定することができる。

実践例2 「いやだけど、しかたがないから食べる」のように、「しかたがない」の気持ちも大切に育てたい。始めは、いやな気持ちから出発しているが、自分をを改革し伸びようとしている心を察知してやるのが大切であると考えている。

④柔軟性の育成

対人関係や先々の出来ごとに不安を持ったり完全主義から起こる不安を持ったりする児童が見られる。これは、一つには、大事なことやそうでないことを取捨選択していく能力や判断力が乏しいからである。このような不安を取り除くために次のような実践をしてきた。

実践例1 「物事には、いろいろな考え方があるという考えをもち物事に当たられるようにする。また、自分の考えだけに固執することなく、他の考えを受け入れたり自分の考えを修正していく気持ちを育てたい。その為には、「～でなくてはならない」の考えかたから「～であることにこしたことはない」の考え方を担任自らが教育活動の様々な場面で示して行く必要がある。

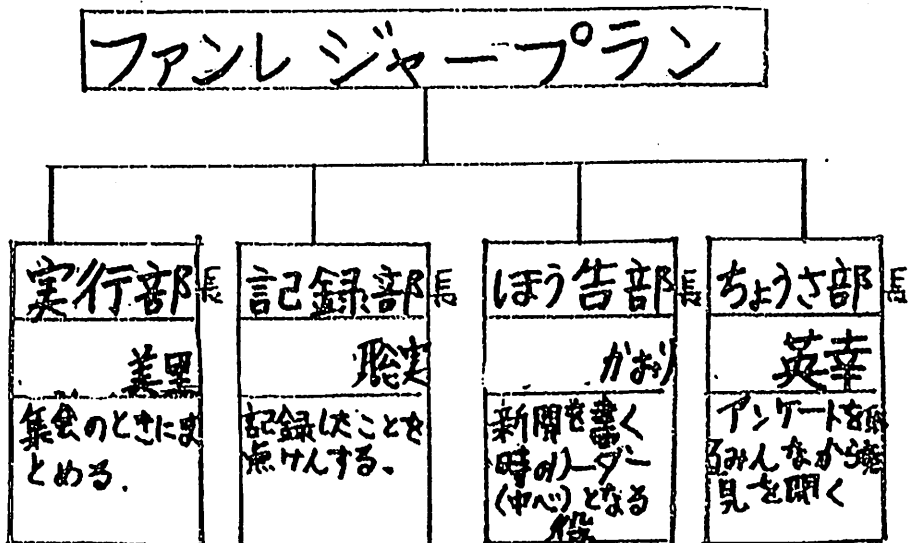
「我慢」「柔軟性」共に、危機への抵抗を強める上で大切である。これらの実践は、教師の対応そのものがポイントとなってくる。

⑤昇華法の学習

「～菌ごっこ」や「無視」等の行為は社会的に受け入れられない行動である。しかし、この遊び型のいじめは、学校生活でたまった欲求不満を特定の児童をいじめることで発散しようとする側面もある。そこで、小学校時代は、自分の欲求をおさえて社会の原則を受け入れさせる大切な時期であると考えられる。それゆえに社会に受け入れられる形で快楽を満たしていく学習がなおさら必要である。これが、昇華法の学習である。

学級の中では、係活動や当番活動や休み時間の興味ある遊びを通して発散させる。また、お楽しみ会や授業の合間にやる学習ゲームも昇華法の学習となる。特に、集団意識の芽生える中学年以上の学級では、この気持ちが社会的に受け入れられる形で行動に移せるように、そしてグループが少集団化しないように配慮して多くの友達とのかかわりが持てるような場面を設定していくことが必要である。

また、一人一役の係活動を大切にしていきたい。児童は、自分の活躍の場が保証されてこそさらなるやる気がでてくるものである。



資料4 「一人一役の係活動」

資料3 短時間でできるお楽しみゲーム

①ティッシュずもう

ティッシュをこよりにして、2人で引っ張り合う。こよりが切れるまで対戦していくトーナメント戦である。

すぐ切れてしまった児童は残念だが、短時間で勝負がつくので再び奮起することができ、いろいろな友達と触れ合うことが出来る。

②広告パズル

広告を10片に手で切り取る。これを、3～4人組になってもとの形にするものである。雨の日の休み時間や授業が早く進んだ時の残り時間を使ってやると好評である。

とくに、学習中みんなが良く頑張り早く終わった時などやると喜びが一層増してくる。

③ハンカチつなぎゲーム

10人一組くらいになり、ハンカチを結んでいく。早く結んだほうが勝ちである。次に、ハンカチほどこきゲームをすれば元通りである。

④伝言ゲーム

始めに伝言する言葉を紙に書いておく。

5人グループくらいになり、次々に言葉又は文章を伝えていく。この時は、自然に男女仲良く耳元で囁けるものである。

特に、「言葉の行き違い」を国語科で学習している時期には、このゲームを通してさらに深い理解が期待できる。

(3) 総合単元的道徳学習の実践

私は、自分の良心に従ってよりよい生き方に向かって考え判断して行動する主体的な子供を育てたいと考える。言い換えれば、「生きる力」を持った児童の育成である。

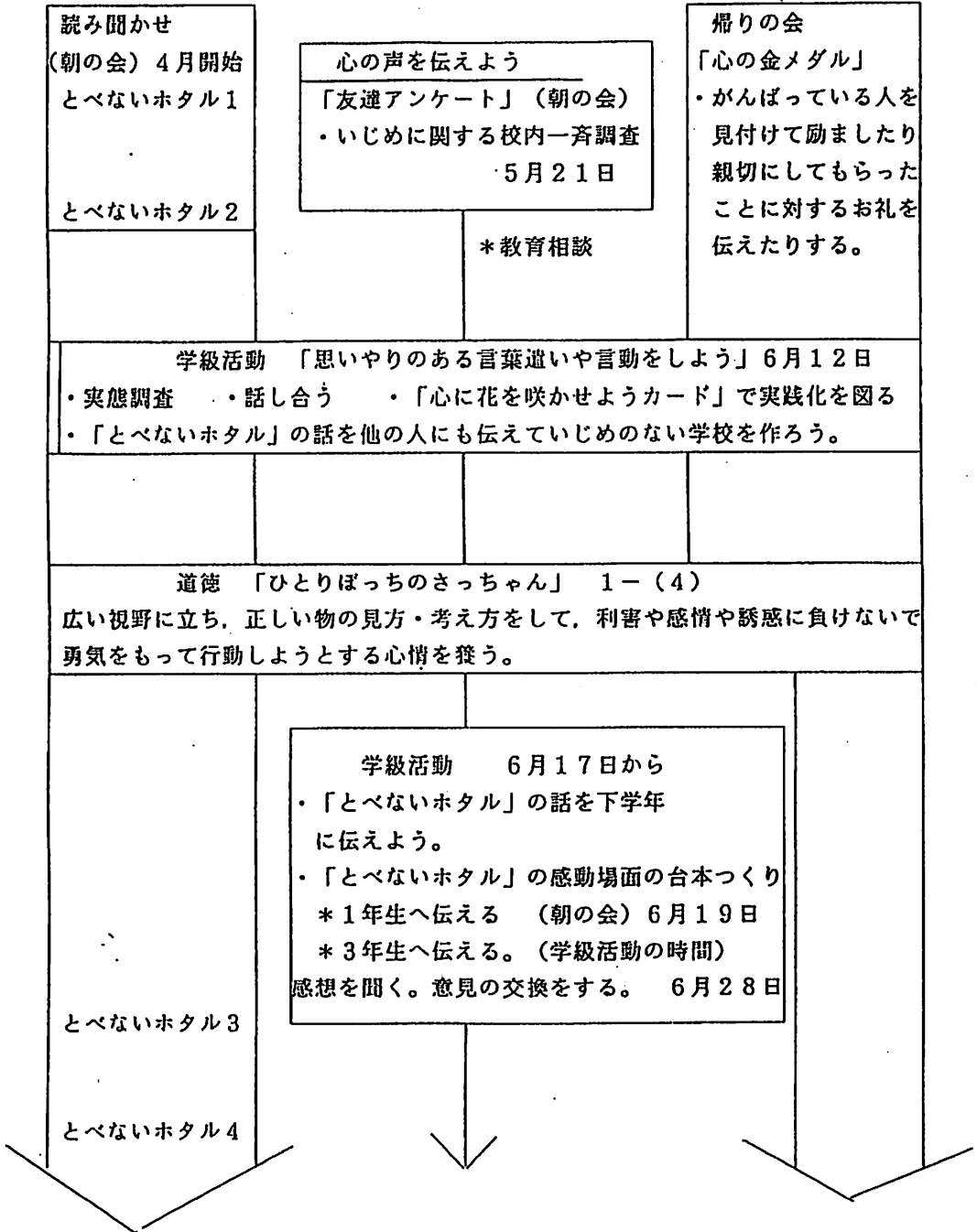
主体的な児童は、児童自身が「なるほどそうだな」とか「自分もこうありたい」と納得しなければ育たないと考える。児童が納得するのは、より良い生き方に感動したり、そのすばらしさを発見した時であろう。主体的な児童を育てることで今まで以上に子供の意識を大切にしたい子供が主体的に発展させていけるような道徳学習を児童と共につくっていく必要があるだろう。だが、週1時間の道徳の時間だけでは細切れの指導になりがちで、道徳的な価値を教え込んでしまいがちであった。このことから、他の教科や領域の学習と道徳の時間の関連を図りながら児童の心を計画的・発展的に育てていこうとするものが、「総合単元的道徳学習」である。

横断的・総合的な学習の必要性は従来から主張されている。そして、なんらかの形でごく日常的に取り組んでいることでもある。今後は、さらに計画的に、そして意識的に横断的・総合的な学習を実践化することで人間として主体的に生きる力を育成していきたいと考える。

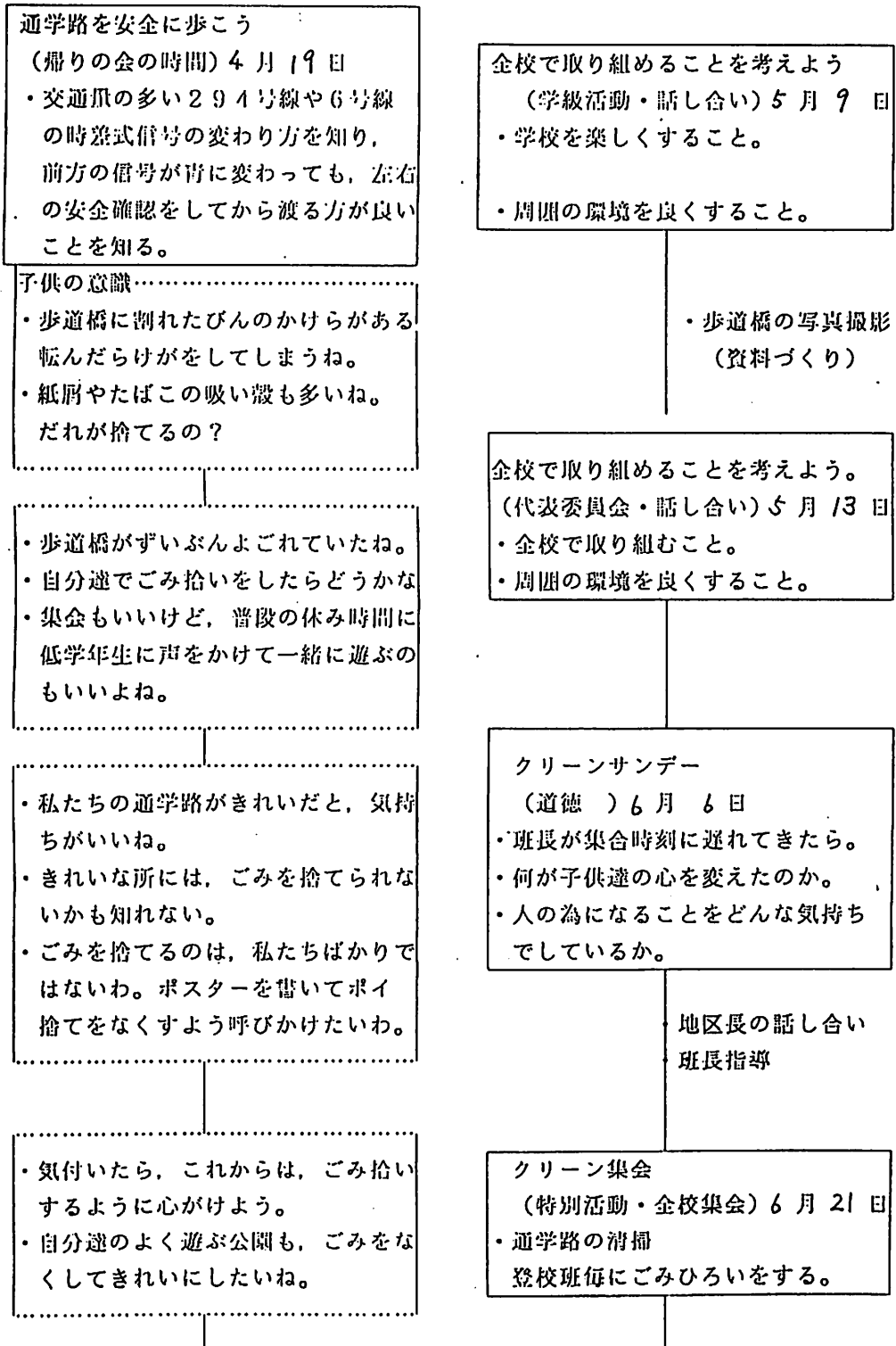
各教科や特別活動においては、道徳的事象や道徳的価値にかかわる知識を中心とした学習や情操を深める学習、行為の仕方に関する学習、道徳的体験の学習などと道徳の時間での学習とを関連づけていくことで、より深まりのある学習が展開されるであろう。

児童はいろいろな体験に主体的に取り組みながら、自分自身の気持ちや考えを深めていくことができる。そして、その気持ちや考えを総合単元的な道徳学習の核となる道徳の時間でさらに深め、「やっぱり自分が考えていたとおりだ」と納得することができ、児童は高まっていくと思われる。

資料5 総合単元的な道徳学習の構想図1



資料6 総合単元的道徳学習の構想図2



4 児童の変容の様子

(1) 主体的な係活動

① 生き物係

- ・カメの飼育から、餌不足に気付いた児童はミミズの飼育に取り組み始めた。
- ・カメの冬眠の準備のため、落ち葉集めをしたり、イネの栽培からワラが残ったのでこれも冬眠の準備に使いたいと考えて提案してきた。

② 給食係

- ・残菜を残さない工夫として、スタンプカードの発行や栄養素を知らせる活動へ発展し意識の高揚を図るようになった。

(2) 主体的な調査活動

① 地域の環境を考える活動

「取手市を思う人々」をテーマとして、地域において奉仕活動をしている人達を調査していくものである。

- ・老人会のごみ拾い
- ・信用金庫の人々の地域のごみ拾い
- ・駅西口の広場で流されている「小鳥の鳴き声」について

② 社会科学習における調査活動

- ・自動車工場の学習から発展して、疑問点を近くの販売店に取材に行く活動等が見られてきた。
- ・学校内で行われてきた学習活動が地域へと、視野の拡大がみられてきている。

5 おわりに

以上のような実践の中で、児童の気付きの増加や主体的な係活動・調査活動が見られてきたのはうれしいことである。

また、総合単元的道徳学習を通して、自らを振り返る場面の増加や体験的な活動の増加によって、友達の良さや自分の良さに気付く機会が増えてきた。これらの機会を通して、自然的に感動体験を積み重ねていることとなり、児童の心の成長も促されている。さらに保護者への意識付けとして、授業参観では、道徳の授業の公開を心掛けたり親子で話し合う機会を設けたりしている。今後は、さらに家庭や地域社会に呼び掛けて、学校だけでなく地域の教育力も高めていく方向へと進めたい。

児童が自分の活躍の場を広げる。つまり、『閾値』を広めるとは、柔軟な思考力をつけることと物理的には行動範囲や交友関係を広めることであり、『たくましく生きる力』を育てることであると考えている。

これを支えるものが、共感的な児童理解であったり、社会性の育成や道徳性の育成であったりすると考える。

児童の伸びようとする姿に気付き、適切な支援を教育活動全体の中でしていける教師でありたい。教育活動全体の中で生きる力を育てるための教師の関わり方を“児童から学ぶ”姿勢を忘れずに実践していきたい。今後は、「癒し」の教育相談に「鍛える」の観点を考慮に入れて、よりたくましく豊かな心をもって生きていく児童育成の方法を考えていきたい。

参考文献

- ・押谷由夫（1997） 子どもとつくる総合単元的な道徳学習 東洋館出版社
- ・国分康孝（1996） カウンセリングの動向 財団法人田中教育研究所
- ・国分康孝・河村茂雄共著（1996） 学級の育て方・生かし方 金子書房
- ・杉原一昭（1996） 危機管理能力を育てる 財団法人田中教育研究所